



明治大学 日本語スピーチコンテスト・準優賞

滝浪晃爾（日系ブラジル人4世）

「さあ、行こう！一家をあげて南米へ！」。3年も働けば大金持ちになって日本に帰れる！という美味しい話があって、多くの日本人が90日もかけて船でブラジルに渡ってから100年です。僕のひいおじいちゃんもその中の一人でした。しかし、聞いていた話とは全く異なり、待ち受けていたのは過酷な労働人生でした。幼かったおじいちゃんやおばあちゃんは学校にも行けず、親と一緒に原始林を切り開いて畑を作り、そこでコーヒーや綿作りをしていました。当時、機械はなかったので鋤を持って朝から晩まで手から血が流れ出るほど働いていましたが、現地の人には馬鹿にされ、畑などは荒らされた、と祖母や父からいつも昔の話を聞いていました。日本でも第二次世界大戦で過大な被害を受けました。やがて、努力の積み重ねにより今では先進国になりました。その様な日本人のひた向きに頑張る根気強さを尊敬しています。そのおかげで、ブラジルにいる二世や三世は尊敬されるようになり、日本語や日本文化を勉強するブラジル人もどんどん多くなりました。現代の日系社会ではなんと医者、弁護士、州議員、国会議員、エンジニアとして活躍している日系2世、3世が多く、ブラジル社会に多大な貢献をしています。今の4世、5世の僕たちは本当に幸せな時代に生まれましたので、先祖たちを敬う気持ちを持って、少しのことで諦めずに精一杯を尽くしています。中学生の時から「日本で勉強したい」という夢を持って頑張っていました。2年前、サンパウロの大学で土木学部を卒業し、その後橋の構造設計事務所に就職しました。その間に日本の全国の大学や研究室を調べ、遂に日本財団が助成する「日系スカラシップ」という奨学金の制度に受かった時、中学生から持っていた留学の夢が果たせたと心に強く感じ、とても嬉しかったです。現在は明治大学院で耐震設計についての研究をしています。ブラジルでは高層化していく街や柱と柱のスパンが長い橋などが増えている為、これからの構造物には振動の影響を無視できないことを意識するようになり日本での就活を開始しました。将来は日本で学んだ理論や技術をブラジルの設計基準に適応し、日系ブラジル人として日系社会に貢献したいと思っています。



栲原町海外留学補助事業

「魅力ある栲原高等学校を創る会」

高知県立栲原高等学校

中越博子 留学支援金留学生一号

私は、中学生の時、オーストラリア研修に3週間行かせてもらいましたが、英語がうまく話せず、自分の気持ちを全然伝えることができませんでした。特に、ホームステイ先の人には、いろいろ気遣ってもらったり、迷惑をかけてしまいました。なぜ、話せなかったのだろう、どうしたらコミュニケーションをとることができるのだろうと後悔・悔しさばかりが残りました。次に行く時は、前回の失敗を繰り返さないよう英語の勉強をして、リベンジをしたと思いました。そのため、今は、学校でALTの先生をつかまえて簡単な会話をしたり放課後には、自分から声をかけ、話す努力をしているところです。伝わらない時には、ジェスチャーをしながら行なっています。2つ目の理由は、苦手な英語の力をつけたいと思っています。これからは、増々、国際化になり、日常生活の中でも英語が使われることが多くなったり、いろいろな場面で英語が必要になってきます。また、将来、仕事についた時に英語が必要となるかもしれません。その時に困らないよう今から英語に慣れ親しむことが将来のために役立つと思っているからです。私は、ニュージーランドの学校を希望しています。すでに、7月に行っている友達の情報など参考にして、自分に合っている学校を選びました。私が選んだ学校は、Long Bay Collegeという学校です。学校の先生の紹介で難波さんという方から、その学校を紹介してもらいました。その学校は、スポーツが盛んであるということが気に入っています。私はスポーツが好きなので、スポーツを通して、コミュニケーションを取り、交流を深めたいと考えています。また、その学校に通っている日本人のコメントを見たとこ授業は選択制なので、興味のあるものを選んで受けるので、楽しいと書いてありました。11月には、難波さんと会い、もう少し詳しい話を聞きたいと思っています。そして、留学するまでに、気持ちを高め有意義な留学生活にしたいと思っていますので、よろしくお願ひします。



ニュージーランドインターシップ レポート・高橋真衣子

長崎県立大学 国際情報部 情報メディア学科 3年

2014年9月、私は4週間ニュージーランドに滞在し、ホームステイ・語学学校・インターシップを経験しました。インターシップでお世話になった職場は、オークランドのブラウズベイにある「Age Plus」。高齢者や障害がある方のためのアイデアグッズなどを販売したり、健康や福祉に関するサービスを紹介したり、お年寄りを中心としたお客様を幅広くサポートしているお店です。私はそこで2週間のインターシップを経験させていただきました。私が携わった仕事の内容は、主にパソコンを使ったパンフレットの制作です。お客様が来店されると、私は作業をしながらスタッフの方が接客されるのを聞いていました。聞き慣れない単語も多かったですが、どんな会話をされているのか集中して耳を傾けました。その会話から、スタッフの方が誠意を持ってお客様に接していること、そしてお客様のお店に対する信頼を感じました。国は違えど、仕事を通じた人とのコミュニケーションや仕事に取り組む姿勢など、本当に多くのものを学ぶことができました。また仕事以外でも、日本とニュージーランドの高齢化社会の現状を知りました。従業員の一人であるターニャという女性は、日本とニュージーランドの福祉医療に関する交流会で日本に来たことがあるそうです。そのときの資料を見せながら、分かりやすい英語で説明してくれました。彼女はその交流会で両国の現状を発表し合ったり、実際に現場に行ったりしたそうです。私は福祉に関して詳しい知識はありませんでしたが、日本の高齢化が深刻であることは知っていました。そしてその現場が人手不足などの厳しい状態にあることも知っています。しかし、このように互いに高齢化が進む国同士が交流し、改善策を考えるための活動があるとは全く知りませんでした。このインターシップを通して、国を超えた取り組みを知り、福祉医療という世界を少し身近に感じるようになりました。日本でのインターシップの経験がない私にとって、海外で実現できたことは本当に貴重な経験です。日本人の働き方だけではなく、こんなワークスタイルもあるのだと新鮮に感じました。この経験があったからこそ、日本での就職活動により熱意をもって取り組めたと思っています。多くの人に支えられ、教えていただいて実現できた短期留学。本当に、感謝しています。そして私のように、海外で仕事に対する自分らしい価値観を見つけられる方がいることを心から願っています。

ニュージーランド短期留学 高橋拓也（大学3年）



今回は自分にとっては初めて長期的に海外に出ることになったが、それは非常に良い経験になったと思っています。と言うのも、これは帰国直前に思ったことなのだが将来的に海外で仕事をするのも一つのプランとして有るのだなという事に気付けたし、語学学校でも多彩な国の生徒さんたちと共に学ぶことがとても大切なのだという事に気付きました。同じ場所で様々な国の人との共存が大切なのももちろんのこと、世界と言うフィールドが自分の想像していたものよりも果てしなく広いという事にも気付けたし、自分の人生のビジョンに新たな視野を広げることが出来た気がします。日本にいただけでは味わえないような経験、例えば巨大なスーパーに行ったりリンゴを丸かじりしたりというようなこともできたのがすごくいいものになったと思います。さらに今後また海外に行きたいという志向がより一層強くなってきました。語学学校も色々な国の人と出会いその国の事を知ることも大事なのだということや、英語が世界をつなぐことにさらに気づくことが出来たと思います。ホームステイもそれまで全く経験はなかったけれども、家族の一員として1か月間温かく迎え入れて下さったので、すごく感謝しているし、何から何まではさすがに言い過ぎかもしれないですが、多くの事でお世話になったと思います。旅行にまで連れて行ってくれたりしたので、これも自分の中ではいい体験が出来ました。日本と海外の家庭のスタイルの違いなどを知ることもできたと思います。あとはここ、カナディアンアカデミーを通じた仲間同士で会うこともできたのでそれもまた自分にとってはよかったです。同じところから行っている仲間が集まるということで様々な話をし合えただろうし、またいつかどこかでこの仲間と会うことも出来たらいいな、と言う思いも自分の中にはありました。ただ自分が帰国1週間前だったこともあるので、もう一度みんなとゆっくり話が出来ることが欲しかったかもしれないです。



津波が残した豊かな自然環境を活かした

新たな地域づくりを

畠山 信 (牡蠣・帆立漁業者/NPO法人森は海の恋人副理事長)

「巨大防潮堤は、地域再生の妨げだと確信している」そう力強く話すのは、「森は海の恋人」運動を続けている牡蠣・帆立漁業者の畠山信さん。生まれ育った気仙沼市西舞根地区はこれまでも防潮堤がなく、全52世帯のうち44世帯が津波で流されるという壊滅的な被害を受けた。しかし、住民の多くは海を恨むことなく海に近い高台への集団移転を選択し、県・市によって提示された9.9mの巨大防潮堤の建設に対しては、住民100%の合意で計画撤廃の要望書を取りまとめ、宮城県と気仙沼市に提出した。「「堤防ができれば、古里ではなくなる」、その言葉に多くの住民が賛同しました。私たちの生活は海の恵みに支えられています。そして私たちは津波が周期的に起きること、津波によってむしろ漁場が豊かになることを知っています。しかし、巨大防潮堤によって森・里・川・海のつながりが分断されれば、豊かな海は荒廃し、沿岸漁業の継続は不可能となるでしょう」

震災当日海の異変に気づき船を沖に避難させた畠山さんは、防潮堤の危険性についても指摘する。「私と同じように、海の異変を見て避難を急ぎ、一命を取り留めた住民もたくさんいます。巨大防潮堤が整備されれば海は見えなくなって津波を察知できません。堤防に頼って避難が遅れ、逆に危険性が増してしまうのです。実際、今回の震災ではそのような地区が多数存在しましたが、そのことがきちんと検証されないうまま、計画ばかりが進んでいる。私たちが次の世代に残すものは、危険が潜み、巨額な建設費と管理費がかかるコンクリートの塊ではなく、森・里・川・海のつながりをもった豊かな自然であるべきです」

震災後、地区一帯は約80cmほど地盤沈下し、川から海へと連続する海岸には汽水の湿地が生まれた。そこは今、トウホクサンショウウオの卵塊やアサリの稚貝、絶滅危惧種ニホンウナギも確認される自然環境豊かな場所となっている。「今一番怖いのは、人が流出し集落がなくなってしまうこと。海の恵みと、津波が残した豊かな自然環境を活かし、新たな産業づくり・地域づくりに取り組んでいきたいのです。そのために今、この防潮堤計画に対して、住民の意見をきちんと踏まえた判断がなされることを求めています」

陸だった場所にできた汽水域 (写真手前側)



カナダ・東北復興プロジェクト



カナダ・東北復興プロジェクトは、東日本大震災で甚大な被害に遭われた地元の方々の復興支援策の一環として、カナダ連邦政府、ブリティッシュ・コロンビア州政府、アルバータ州政府およびカナダ林産業界が立上げ、450万カナダドルの支援金を準備し、被災地でカナダの木材を使用した公共施設の建設を推進しています。



オランダ島ハウス

- *「ゆりあげ港朝市」(宮城県名取市)
- *「どんぐり・アンみんなの図書室」(宮城県名取市)
- *「オランダ島ハウス」(岩手県山田町)
- *「障害児者支援センターエリコ」(福島県いわき市)

「カナダウッドグループ」について (<http://www.canadawood.jp/>)

カナダウッドグループは、カナダのいくつかの林産物関連協会を傘下に持つ団体組織で、最高品質を誇るカナダの林産製品の国際市場への窓口として包括的な役割を果たしています。グループに加盟している各協会には地域、州、または全国規模の団体、また特定の製品を扱う団体などが含まれています。カナダ国内ではこれらの協会は、各会員企業を代表して森林政策、貿易、建築法規、製品リサーチ、環境など諸問題についての取り組みを行っています。海外向けにはこれらの協会が一致団結し、カナダウッドグループとしてカナダ産林産製品及びサービスの普及に取り組んでいます。